

団体名	国立大学法人 岩手大学							
事業名	多文化キッズキャンプ in いわて 2017							
実施期間	2017年1月8日～9日							
場 所	国立岩手山青少年交流の家							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	14	2	22	38	9	3		88

<実施内容>

岩手、福島、宮城、青森には、外国につながる子どもたち(外国出身、または親が外国人の子どもたち)がいますが、日頃、同じような境遇の子どもと接触する機会が少なく、また、学習支援を十分に受けることができない環境にある場合も少なくありません。この多文化キッズキャンプでは、留学生と日本人学生が協力して、このような子どもたちの日本語や日頃の学校の勉強の手伝いをしたり、ゲームや、スポーツ、遊びなどで交流しました。このキャンプは11年前から始まり、毎年繰り返し参加する子どもたちもいます。留学生の中にも、何年も続けて参加してくれる学生もいます。

キャンプでは、まず、子どもたち、学生、そして、ボランティアのスタッフ、保護者もいっしょに、大学生がリーダーになって交流ゲームをしました。それから、ペアやチームに分かれて、子どもたちと勉強をしました。子どもたちは冬休みの宿題や、日頃、学校でわからない勉強について学生たちに教えてもらいながら、熱心に勉強に取り組みました。夜は、スポーツや日本の遊びなどを楽しみました。また、子どもたちは同じ国出身の留学生と母語で話したり、出身国の様子を聞いたりしていました。日本人学生も留学生と一緒に子どもたちの相談に乗ったり、お互いの文化について教え合ったりしていました。参加した学生にとっては、単なる交流ではなく、日本の多文化社会について学び、支援する活動になりました。

<記録写真>



交流ゲーム的一幕



学習の時間です



参加者全員で

<参加者からのコメント>

ポリーナさん(ロシア)/Polina G.(Russia)

多文化キッズキャンプについて聞いた時、それはおもしろいと思ったが、ちょっと心配した。外国の子どもと話すことがあまりなかったからだ。しかし、それほど難しくなかった。キャンプに参加して、みんなと話して、どの国の子どもでもやっぱり普通の子で、交流はおもしろいと分かった。たくさん友だちができたし、日本の学校のおもしろいことを知ることができた。また、子どもと宿題をしたことは自分にとっても勉強になった。このようなイベントに参加するのは本当によかったと思う。

黄利斌さん(中国)/HUANG Libin(China)

私はもう5回ぐらい多文化キッズキャンプに参加しました。毎年多文化キッズキャンプで彼らと会えるのを楽しみにしていました。子供たちが少しずつ成長していく姿を見て、やりがいがあると感じました。一緒に部屋になった子供たちは大体小学低学年ですが、子供たちはきちんと自分の蒲団を畳んでくれたり、一緒に部屋の掃除をしてくれたりして、本当に立派でした。帰国したら、中国の子供たちにもそのことを伝え、習ってほしいと思っています。子供たちと一緒に勉強したり、遊んだりして、大変有意義な二日間でした。今後も多文化キッズキャンプのボランティア活動を続けていきたいと思っています。